

審査委員長は橋本氏に決定

七月十六日(水)北海道新聞社会議室において、選考委員会(谷口勲夫、片村洋市、斉藤ただし、河江利幸)が開催され、審査委員長選出基準に基づき検討の結果、第五十六回写真道展審査委員長に橋本博氏が推薦されました。

また、新常任審査員の検討も行われ、現行基準を満たす該当者はありませんでした。九月五日(金)、第二回実行委員会を開催し、選考委員会の推薦経過を審議して、答申どおり第五十六回写真道展審査委員長に橋本氏が決定いたしました。

なお、招聘審査員は新たに二名加えることとし、道内写真家の谷口勲夫氏、岡本洋典氏にお願いいたしました。両名の参画で新たな感性での審査に期待が膨らみます。

第五十六回写真道展作品応募は、平成二十一年一月十三日(金)に締め切りで、審査は二月二十八日(土)・三月一日(日)の二日間に行われ、北海道新聞社会議室で行われます。

審査委員長・招聘審査員の紹介

審査委員長 橋本 博氏

一九八五年から二〇〇六年まで、写真協会副会長。第四十六、五十二回展に続き三度目の審査委員長。

主写真展に「北国アラバスタ」「北都物語」「ふゆ、札幌、一人歩き」ほか。写真集「北都物語」「北都物語」PART2。

現在、写真協会審査会員・顧問
ニッコールクラブ名誉顧問

谷口 勲夫氏

北海道新聞社写真部長として、第四十四回から四十七回まで四回道展の審査を担当。退社後、二〇〇〇年から道新文化センターの講師として、写真文化の向上普及に活躍している。

現在、日本写真芸術学会会員

ZPO法人「北海道を魅せる写真家集団」理事
フォト札幌「花の会」代表

岡本 洋典氏

動物物を含めたネイチャーフォトを分野に、北海道の自然写真における代表的写真家として活躍。代表作「雨童沼」は学術的にも高い評価を得ている。数多くの写真展・写真集で、格調高い作品を発表し続けている。

現在 日本写真家協会会員

ZPM(北海道 Nature Photo Masters)主宰
「北の写真家集団・DANNP」主宰

写真道展の会場と日程

公募展(二十一日は休館)

富士フイルムフォトサロン

二〇〇九年五月十五日～二十日

第一部

二〇〇九年五月二十二日～二十七日

第二部、第三部

審査会員・会友作品展

道新ぎやうりー

二〇〇九年五月十四日～十九日

(本郷記)

私の一枚=随 想

〈シリーズ-51〉

札幌支部長

宮川 恵子



依頼を受けているさなかに頭をよぎったのが実はこの写真だった。

ある意味全く私的なこの写真をここに掲げようか他の写真にしようかと迷ったのである。何故ならこれは亡き夫の写真だから…

写真嫌いの夫の数少ないお気に入りの写真。一枚が彼の葬儀に飾られた。

「私が写真を始めたのは、たった一枚の夫のこの時のこの写真を撮る為だったんだ」と数年前の葬儀のとき妙に強く納得したので覚えている。そのうちの一枚がこの写真である。

真剣に手術に打ち込むスタッフたちの邪魔にならぬよう、這いつくばって僅かの隙間から撮ったものであるが、その独特の手術場の雰囲気には呑み込まれそうだった。もう少し上達したらまたと思っていたのにその機会は訪れることなく終わってしまった。

考えてみれば自分自身が成長したら是非とも対峙したいと思っていた数人の男たち(さまざまな職業人)が今は皆故人になつてしまった。撮りたいと思つたその時は、その人の最も充実していた時なんですね、精一杯歩んできた人生が深く刻み込まれた風貌。今も残念な思いでいっぱいである。

「君らしく自然体で生きなさい、生きることと仕事を思い自分の気持ちに正直でいなさい。」と。虚無感に襲われ写真への興味が全く無くなつてしまった時も、再びカメラを持ち始めたときも、そして今もあの写真は私に語りかけてくれる…ちなみに刻限も間近かというのに写され嫌いの私のそのときの写真は未だ用意されていない。